



2025年 6月18日
第202号

JR 東労組 Yokohama



JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一
編集 情宣 担当
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp/>

横地申
第16号

「南武線における集約臨時列車」を担当する兼務社員に対し、 丁寧な教育の実施と安心して乗務できる環境を求める申し入れ 団体交渉を行う①



※冒頭、4月25日に申し入れを提出してから2か月近く経過したことについて議論する。

組 合

4月後半に申し入れして2ヶ月近く経過し、すでに集約臨の運行も始まっている。南武線ワンマン運転について1年以上前に提案され、かなり時間軸があった中でなぜこのタイミングなのかという大なる疑問がある。きちんと安全を確保できる教育・訓練体制を求めているのであって、解明交渉では「検討中でまだ示せない」という回答であったが、なぜここまで時間かかったのか。

会 社

様々調査した中で、時間が経ってしまった。集約臨の運行はすぐに決まるものではない。臨時列車として設定された時に、初めて乗務員等の運用を決めて進めている。

1. 横地申第4号交渉では、集約臨の考え方について会社側から「車両改造やホームドア、集約臨の考え方も含めて全体を見て検討している」と回答している。その後の議論においても、「車掌担務者は南武線オフィスからいなくなるという認識でよいか」という我々の問いに、会社側は「基本的にはそのように考えている」と回答している。また、施策提案時においても会社側は「全時間帯のワンマン運転となる。時間帯によって車掌を乗務させる考えはない」と述べている。にもかかわらず、なぜこのような経緯になったのか。理由と根拠をきちんと示すこと。

【会社回答】南武線の定期列車については、ワンマン運転を実施しているところである。

なお、臨時列車の乗務員については、列車ダイヤの設定及び車両運用を勘案して決定している。

組 合

なぜこのような経緯になったのか。

列車ダイヤがあり、車両運用を決めた上で進めていく。(南武線ワンマン運転)解明交渉では確かに「検討中」と回答したが、この時は何も決まっていなかった状態。その時点では検討中であったため、「検討中」という回答をさせていただいた。

会 社

確認する。運行することを想定はするべき。運行の可能性がゼロではない。決まっていなくても、「運行の可能性はある」ということを示していただいてもよいのでは。

列車で行くのか、バスにシフトするのか、世の中のニーズが変わる可能性もある。予約を受けなければ、明確なものが見えない。なので、解明交渉の時点では曖昧な回答ができなかった。

ニーズが変わるのは理解できるが、そうは言っても「予約をお受けできません」とはならないので、想定することは必要。

柔軟な対応については会社も認識しているが、ただ時間軸的に検討中であったことはご理解いただきたい。

乗務対象の車掌担務者が異動直前で兼務発令となったことについて、なぜこのようになったのか？

2月の中旬に集約臨の運転報が示達され、その時をもって運行が決定しているのと、それ以降にどのくらい運行するのか精査した中で、兼務の考えについて議論して決めてきた。

運転士と車掌の相互運用を担っている社員で賄えなかったのか。

基本は定期列車での相互運用。集約臨は運転指導や副長の方などが乗務していた。

集約臨に乗務できる乗務員の養成は考えていなかったのか？

集約臨の運行を想定し、E257系に乗務可能な乗務員を養成する考えはあったが、思うように増やしていけなかった。

これから初めて乗務する方もいると思うが、そういった方に対してフォローする考えはあるか。

コミュニケーションをとって必要があればフォロー添乗して対応する。集約臨のみならず、乗務員から不安申告あれば話してフォローしていく。その考えに変わりはない。 **確認！**

最終乗務を終えた翌日に副所長から電話で兼務発令の打診を受けた。「実際に乗務するかどうか分からない」と軽い感じで言われたが、最終乗務前に職場で事前に打診するなど、打診を受けた側としてはそうしていただきたかった。

様々意見があるのは承知している。人選や教育体制についても考えなければならない。一方で、貴側から言われたような課題もあると思っている。そこは今後しっかりやっていきたい。

次号②へ続く